

## 橿原市第4次総合計画の策定状況について

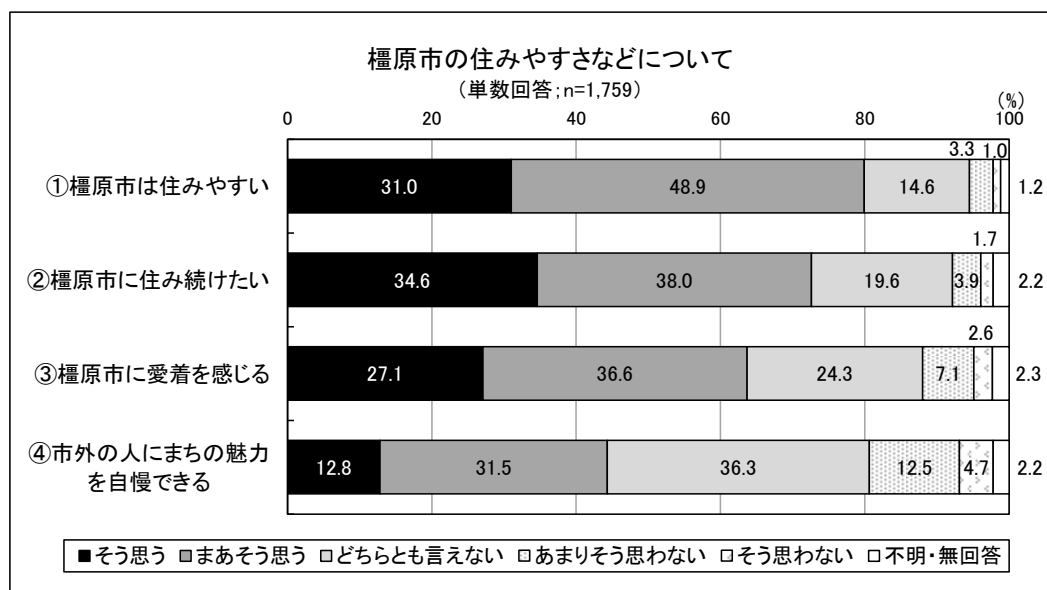
## 市民の意見

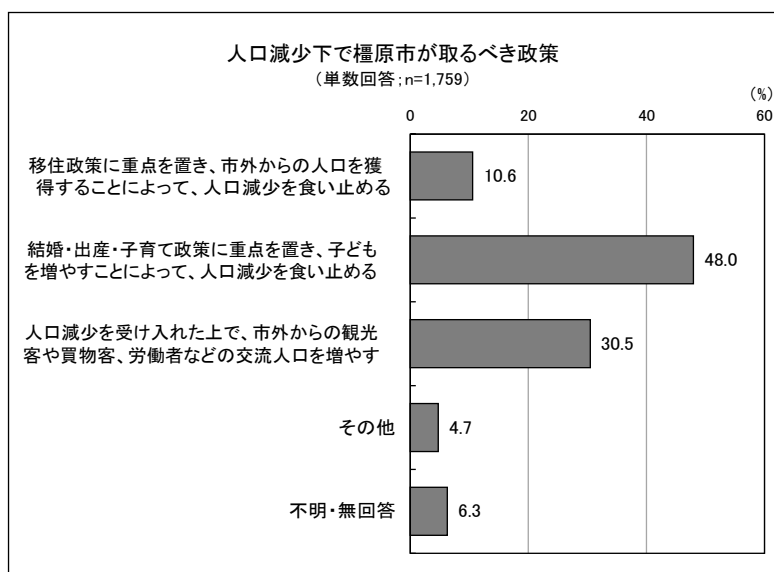
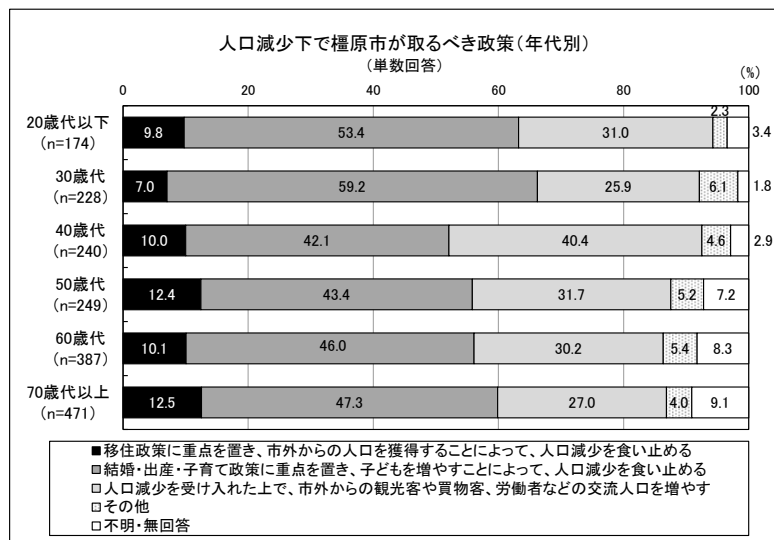
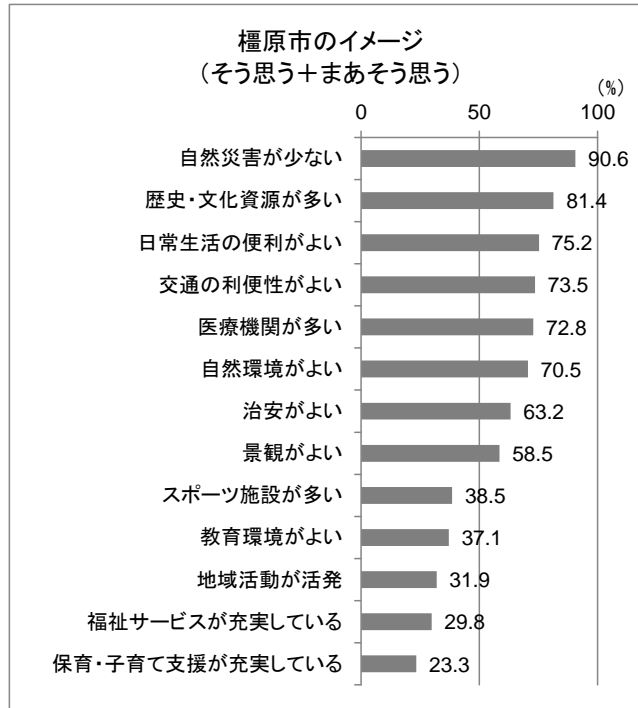
- ・ 総合計画策定にあたり、市民から幅広いご意見をいただくため、4つのアンケートと、市民ワークショップの取組を実施しました。

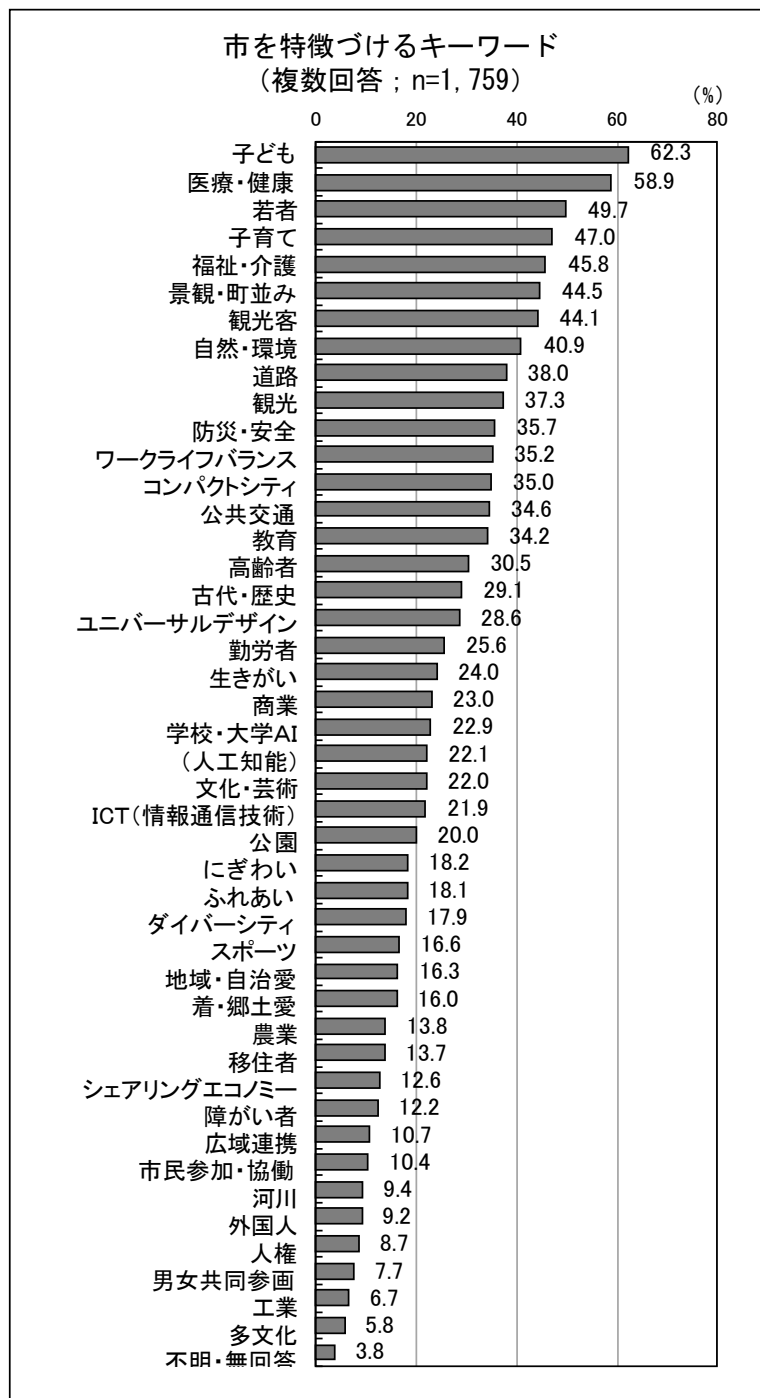
### ◆市民意見の把握の取組

名称		時期	対象	方法
アンケート	市民アンケート	平成30年10月	18歳以上市民 5,000人 回収 1,759件（回収率 35.3%）	郵送
	各種団体アンケート	平成30年12月～1月	市内で活動する各種団体 163団体 回収：101件（回収率 61.2%）	郵送
	転入出者アンケート	平成28・29年度	転入者 2,430件、転出者 2,546件	市窓口
	中学生アンケート	平成30年11月	市立中学校全6校（夜中除く）の中学2年生全員 回収897件	学校
市民ワークショップ（計4回）		平成30年11月～平成31年2月	各回、市民 20～30人程度参加	公募等

### （１）市民アンケート







## （２）各種団体アンケート

- 各種団体アンケートに回答のあったのは 101 団体で、子ども・子育てに係る活動をしている団体からの回答が多かったこともあり、目指すべきまちづくりの方向について「福祉」「子ども・子育て」「教育」に関することが多くあげられましたが、「観光」「まちづくり」「防犯・防災」についても重視されています。

### ◆ 市として目指すべき方向に関する意見

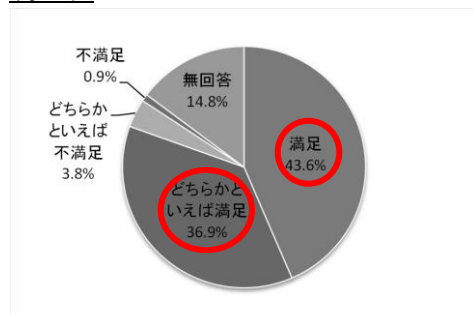
<p>（福祉）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども・障がい者・高齢者誰もが安心して暮らせる共生社会をめざす</li> <li>高齢者が最期まで自立して暮らせる街をめざして欲しい</li> </ul>	<p>（子育て）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子育て環境の整備など若年層の移住促進施策を講じ、市の活性化を図る</li> <li>学童を希望する児童が安全に全員入所できる状態を目指すべき</li> </ul>	<p>（教育）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育環境の充実</li> <li>将来檀原市を担う、子ども達の情操教育、（道徳教育）に力を入れる</li> <li>青少年の野外活動の充実</li> </ul>
<p>（観光）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歴史資産を活用した観光の振興</li> <li>藤原宮跡、大和三山のさらなる活用</li> <li>世界文化遺産の認定に向けて、幅広い活動を展開</li> </ul>	<p>（まちづくり）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中南和地域の拠点都市として、都市機能をより充実させた都市を目指す</li> <li>人口減少化でも市民が快適な生活をおくれる地域づくり</li> </ul>	<p>（防犯・防災）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安全安心のまち</li> <li>防災に強いまち</li> <li>治安のよいまち</li> </ul>

## （３）転入出者アンケート

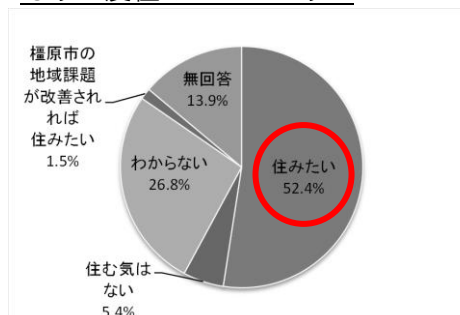
- 転入者及び転出者ともに若い 20 歳代～40 歳代が 8 割を占め、また、住所の変化では県内からの転入が 48%、県内への転出が 43%で、県内での人口移動が半分近くを占めています。
- 転入出のきっかけは、いずれも最も多いのが仕事の都合であり、次いで結婚のためとなっています。
- 転出者の檀原市の満足度評価では、「満足」「どちらかといえば満足」をあわせて 81%を占めており、転出はしたものの、まちに対する満足度は高いといえます。また、「もう一度住みたい」とする層が 52%を占めており、人口減少を抑制する観点からは転出者のＵターン促進も留意すべき点と言えます。

転出者の檀原市の評価

### 満足度

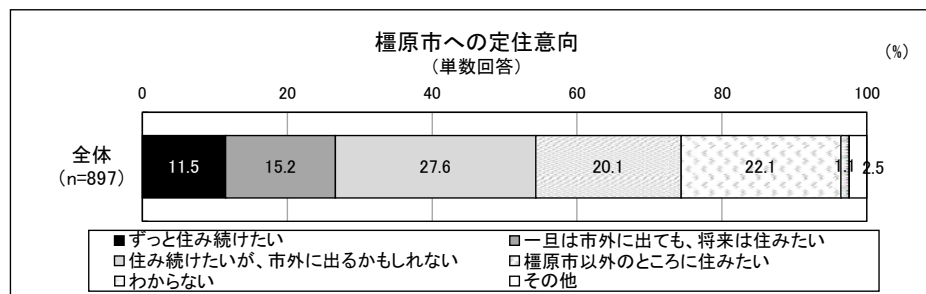
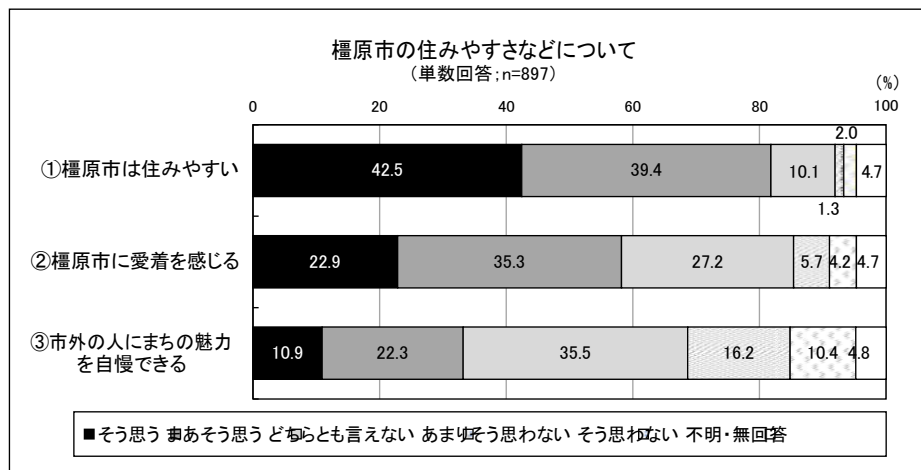


### もう一度住みたいかどうか



#### (4) 中学生アンケート

- ・ 未来を担う中学生に対して榎原市の住みやすさ等について尋ねたところ、「榎原市は住みやすい」については、「そう思う」と「まあそう思う」の合計が 82%で、市民アンケートを少し上回る高い評価を得ていますが、「榎原市に愛着を感じる」（58%）や「市外の人にまちの魅力を自慢できる」（33%）については市民アンケートよりも低くなっています。
- ・ 定住意向では、「ずっと住み続けたい」が 12%、「一旦は市外に出ても、将来は住みたい」が 15%で、合計 27%が定住意向を持っていますが、一方が「住み続けたいが市外に出るかもしれない」が 28%、「榎原市以外のところに住みたい」が 20%、合計 48%が将来市外に出ることを視野に入れています。若い世代にとって、市外の生活はあこがれともなっており、住み続けたいと思えるまちにするためには、遊んだりするための娯楽の場の充実や、子どもたちが魅力的と感じるまちとしての整備も求められています。



## （５）市民ワークショップ

- ・ ４回の市民ワークショップを通じて、まちの「いいところ」「気になるところ」を出し合いながら、「橿原市の未来」のビジョンについて練り上げていきました。

### ◆ワークショップで出された、まちの「いいところ」「気になるところ」

政策分野	いいところ	気になるところ
安心安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 災害が少ない。</li> <li>○ 全体的に治安がよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 古い街で空き家が増えている。</li> <li>● 街灯が少なく危険な場所がある。</li> <li>● 旧道が狭く、緊急車両が通れない。</li> </ul>
福祉と健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 医療機関が充実している。</li> <li>○ 耳成山登りなど健康づくりの取組。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 世代間の交流が少ない。</li> <li>● 高齢者が活躍できてない。</li> </ul>
子ども・子育て	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 公園が整備されていて遊ばせやすい。</li> <li>○ 子育てしやすい。サービスが良い。</li> <li>○ 小学生の歴史教育をやっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 遊ぶ場所が少ない。</li> <li>● 子育てに不便。</li> <li>● 育児を相談できる場所が少ない。</li> </ul>
市民の自立と個性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人が親切。子連れに声をかけてくれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自治会が閉鎖的。</li> </ul>
文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大和三山や遺跡など資源が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 資源が多いがPRや活用が不足。</li> </ul>
活力と賑わい	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 近郊の大型店はいろいろな店があり子どもも大人も楽しめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大阪や京都、神戸で遊ぶ方が楽しい。</li> </ul>
快適生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 交通の便がよい。駅が多い。</li> <li>○ 都会すぎず田舎すぎず、まちのスケールがちょうどいい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 都市計画が進んでいない。</li> <li>● 八木周辺や大型店周辺の渋滞がある。</li> <li>● 公共交通（バス）が不便。</li> </ul>
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ワークショップをこれからもどんどんやってほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 持続可能な財政基盤の確立が必要。</li> <li>● 行政情報の伝達が良くない。</li> <li>● 市民が行政に関心を持っていない。</li> <li>● 市民の意見が行政に通りにくい。</li> </ul>

### ◆ワークショップで提案された、目指すまちの姿

<p>（まちの魅力や住みやすさ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自然・歴史・利便性が活かされて、住みたい、住み続けたいと思うまち</li> <li>● みんなが地域について学び、地域の資源が活かされ、好きになれるまち</li> <li>● 愛着・住みごこち日本一のまち</li> <li>● 市民の防災意識が高く、災害への備えがあり、自分で自分を守る情報があるまち</li> </ul> <p>（子育て）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 子どもがみんなから大切にされ、教育が充実したまち</li> <li>● 子どもがみんなから大切にされ、市民が子どもに積極的に声かけし、子育てに悩む人がいないまち</li> </ul> <p>（多世代交流）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 高齢者や子ども、そして学生も働き盛りも全世代が手をつなぐまち</li> <li>● 多世代が元気にあいさつし、互いに支え合い、元気を与えあうまち</li> </ul> <p>（健康）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 家族や仲間と大和三山やまちなかを歩けば自然と健康長寿になる、歩きたくなるまち</li> </ul> <p>（協働のまちづくり）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 行政と市民の一緒に活動の場があり、取組成果を共有するなかで新しい市民自治が生まれる地域力の高いまち</li> <li>● 様々な地域・分野・年代で対話があり、その結果をみんなが関心を持って共有するまち</li> <li>● 市民の市政への関心が高く市民協働が広がっているまち</li> <li>● 各地区で車座が開催され、市民の声が生かされる、公明正大なまち</li> </ul>
--

